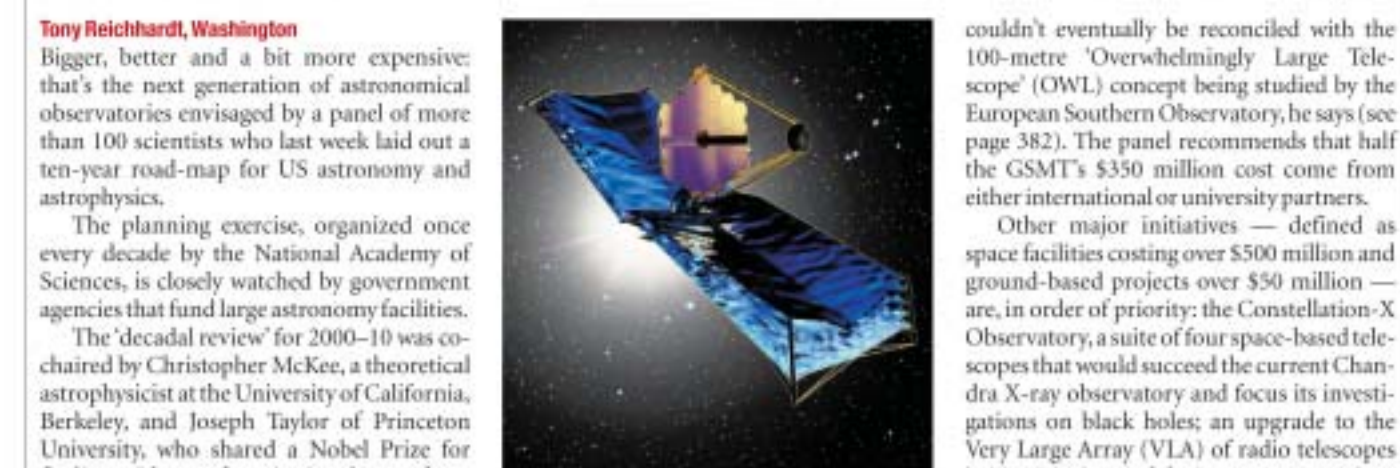


「広報普及活動は最前線の研究と両輪となるべし」

## US astronomers draw up their wish list for a decade of funding



Tony Reichardt, Washington... couldn't eventually be reconciled with the 100-metre 'Overwhelmingly Large Telescope' (OWL) concept being studied by the European Southern Observatory... The planning exercise, organized over several days by the National Academy of Sciences, is closely watched by government agencies that fund large astronomy facilities... Their top recommendation is the Next Generation Space Telescope (NGST), a \$1 billion successor to the Hubble Space Telescope... "When we look at the technology development for a 100-metre telescope, we get scared," says Taylor. Note that the GSMT is not at the end of the scale, the panel chose caution over performance.

アメリカ：5000億円/10年  
日本：1000億円/10年

「US astronomers drew up their wish list for a decade of funding」の記事

## 2.プラネタリウムの現状および分析

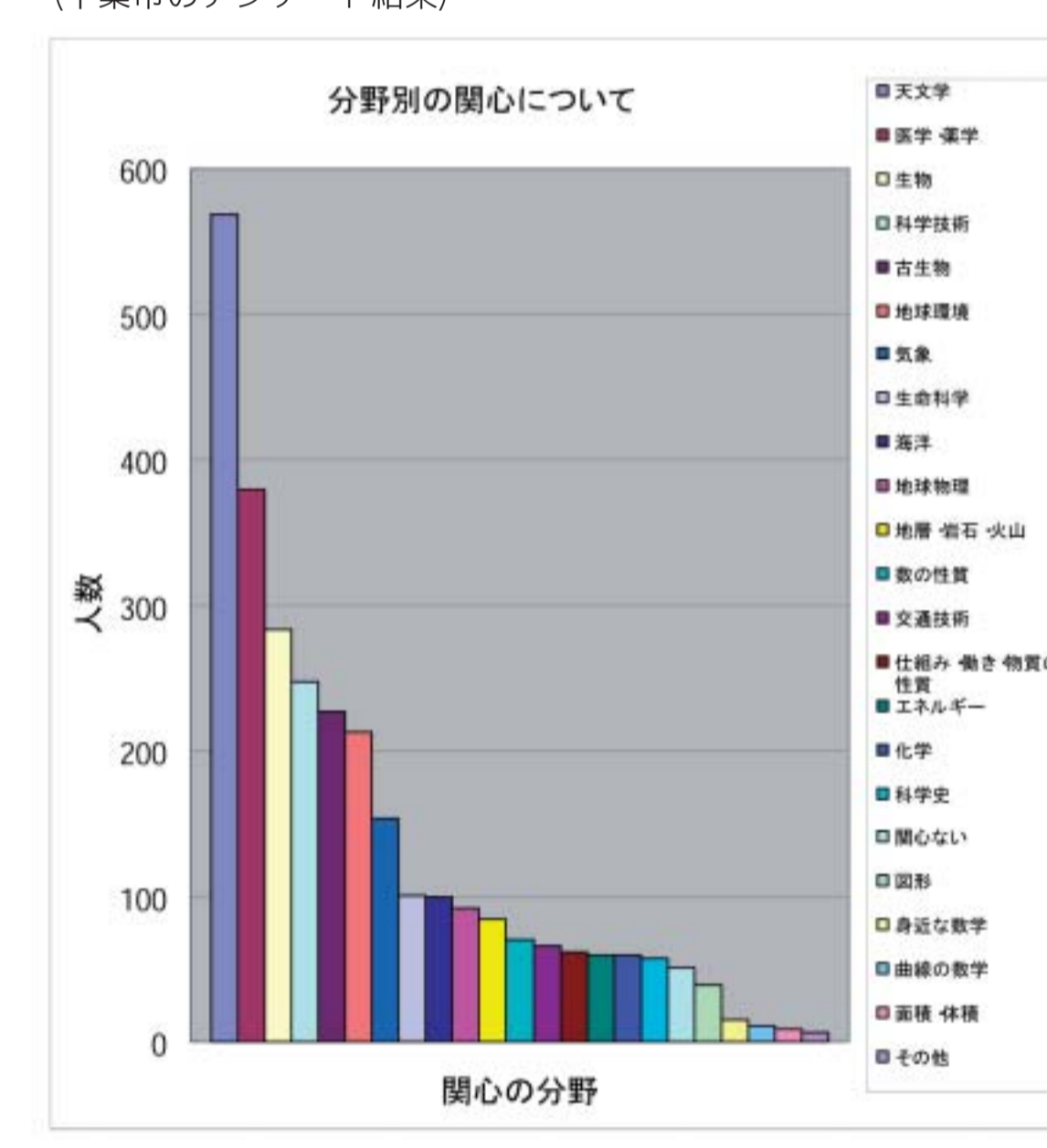
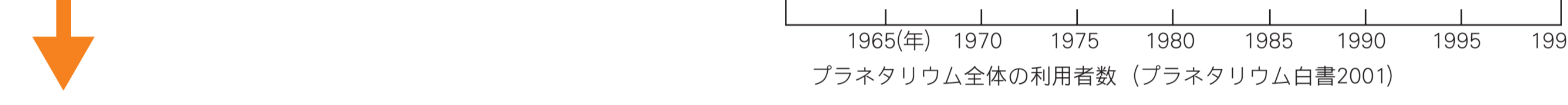
### プラネタリウムが閉館 東京・池袋のサンシャイン

延べ約740万人が入場し、人気を集めた東京・池袋の「サンシャインプラネタリウム」が、1日の営業を最後に閉館し、25年の歴史に幕を閉じた。ドームは今後、プラネタリウムの機能をもったまま、イベント用の多目的ホールとして利用される。1日は通常通り9回投影の予定だったが、満席が続き、最後に追加投影が1回行われた。1978年の開館当時は、投影などをすべて自動で行う全国初のプラネタリウムとして話題となった。ピークの1989-91年は、年間の総入場者が40万人台に達した。しかし、ここ数年は20万人台に落ち込み、古くなった投影機の更新など新たな設備投資を迫られたことから、事業継続は困難と判断された。(共同通信 2003/6/1)

プラネタリウム業界は苦しい！  
天文「学」の人気は落ちているのか？

ただし、全部が“斜陽”というわけではない。

一般にはこんなに人気！  
プラネタリウム自体の人気は落ちている？



分野別の関心について  
天文学が最も多く、次いで医学・薬学、生物、科学技術の順となる。

# 1.なぜ広報普及？

予算規模≠成果  
but 出来れば基盤は強い方がよしい。  
↓  
経済性の追求+予算規模の拡大も目指すべき  
↓  
(能動的) 広報普及！  
⇔(受動的) 広報普及  
・一般の需要を汲んだ広報活動  
・従来の典型的な広報普及の形

www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/templa/

# 天文学とプラネタリウム

## 4.我々のすべきこととは何か

上の例は、プロの研究者とプラネタリウムのコラボレーションの例。  
ひよっ子の我々に出来ることはないのか？  
→ニッチの発見

### 事例紹介

[観望会スタッフ]  
講演という形態ではなく、観望会のスタッフとしての参加

例1 国立天文台観望会  

- 主体は学生ボランティア
- 一般の反応を身近で感じられる
- アンケート結果

例2 天の川急便  

- “攻め”の広報普及
- 本来の意味での一般人が対象(草の根活動)
- 仙台の天文ボランティア“うちゅうせん”も同様の活動

天の川急便  
<http://www.spacecabin.com/guerrilla/>  
天文ボランティア“うちゅうせん”  
<http://www.geocities.com/jp/NatureLand/3569/>

### [講演会講師] 例

- (写真、未入手)
- ・セッティングの鈴木さん、講師の大内さん
- ・講師は院生！
- ・「自分にしか出来ない話」(観測の様子など)
- ・アンケート結果

- ・学芸員さん＆プロの天文学者の出来ない講演を (鈴木, Twilight No.25, 2002)

### [勉強会講師]

生涯学習の見地から高齢者も積極的に対象に例 高齢者を対象とした勉強会

- ・概要
- ・(向野, Twilight No.25, 2002)

☆考えられる活動例

例1 輪読会  

- ・例えば「銀河の世界」の輪読
- ・コメンテーターとしての学生スタッフの参加
- ・(若松の提案)

他にもやっている活動があれば紹介を！

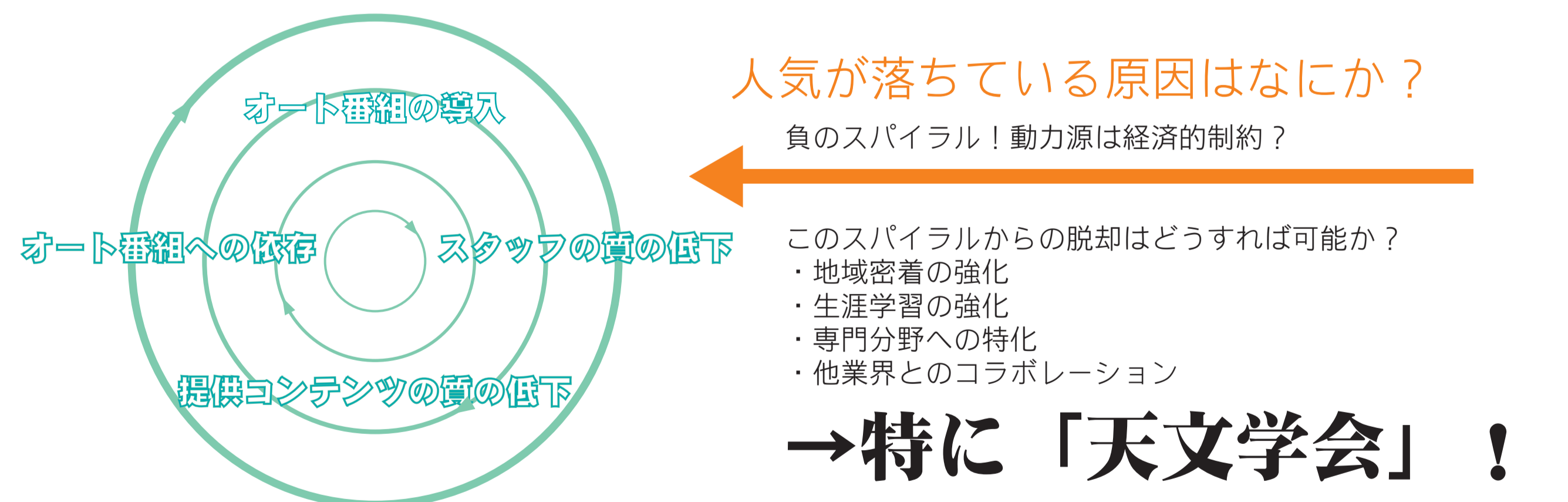
プラネタリウムを利用する利点

- ・日本全国に存在する(高知を除く) →できれば分布図
- ・既に天文ファンのネットワークが作られていることが多い
- ・ハードとしてもソフトとしても魅力的 →積極的に利用すべし！

「天文学」という言葉に対する誤解を放置してはならない。

## 3.天文学

## プラネタリウム



博物館とは  
「生活者の眼で導入し、科学者の眼に展開していく」(嘉田)

### 実践へ

- ・来館者へのアンケートに対する回答を研究者にも依頼(高橋, Twilight No.17, 20-23, 1998)
- ・天文業界とのコラボレーション(毛利, 天文月報, 130-136, 2001)(若松, Twilight No.21, 9-20, 2001)

例 札幌での講演会

- ・セッティングの向野さん、講師の徂徠さん
- ・内容は電波天文学
- ・アンケート結果(難易度、満足度)
- ・(日本プラネタリウム協会教育部会, Twilight No.26, 2003; 伊東, Twilight No.26, 2003; 向野, Twilight No.26, 2003)

人気は落ちている原因はなにか？  
負のスパイラル！動力源は経済的制約？

このスパイラルからの脱却はどうすれば可能か？

- ・地域密着の強化
- ・生涯学習の強化
- ・専門分野への特化
- ・他業界とのコラボレーション

## 5.reference

document

(1)プラネタリウムの現状

- ・「プラネタリウム担当者の立場」河原郁夫, Twilight No.2, 1993/4
- ・「第三世代のプラネタリウムに望むこと」山田卓, Twilight No.2, 1993/4
- ・「地上に星空を(5~7章)」伊東昌市, 1998/8
- ・「プラネタリウムの国勢調査」渡部義弥, 天文月報, 2001/1
- ・「プラネタリウム白書2001」(日本プラネタリウム協会編)
- ・パナルディスカッション「プラネタリウムの未来について考える」Twilight No.25, 2002/11

(2)プラネタリウム番組の問題点

- ・「座談会『プラネタリウムのここがつまらない』」菅原賢編, プラネタリウム会報No.61, 1997
- ・「『プラネタリウムのここがつまらない』アンケート結果の分析」加藤謙一, プラネタリウム会報No.61, 1997
- ・「アンケート結果の考察」加賀俊哉, プラネタリウム会報No.61, 1997
- ・プラネタリウム会報No.61掲載、プラネタリウムのここがつまらない特集
- ・「ちゃんと番組を作ろうぜ！～プラネタリウム番組に明日はあるか～」本間保太郎, Twilight No.17, 1998/10

(3)プラネタリウムと天文学

- ・「来館者主体のプラネタリウムをめざして」高橋真理子, Twilight No.17, 1998/10
- ・「新世紀のプラネット利用＜後編＞プラネタリウムの将来と天文学会」毛利勝廣, 天文月報, 2001/3
- ・「21世紀に期待されるプラネタリウム・科学館(講演集録)」若松謙一, Twilight No.21, 2001/5
- ・「プラネタリウムで行う講演会」鈴木麻乃, Twilight No.25, 2002/11
- ・「天文学会とプラネタリウムの連携にむけて」高橋真理子, Twilight No.25, 2002/11
- ・「天文学会とのコラボレーション事業」日本プラネタリウム協会教育部会, Twilight No.26, 2003/3
- ・「日本天文学会と日本プラネタリウム協会とのコラボレーション事業を開催して」伊東昌市, Twilight No.26, 2003/3
- ・「天文学会とのコラボレーション事業について」向野都子, Twilight No.26, 2003/3

(4)一般社会と天文学

- ・「20世紀をふりかえる～1900年代の天文学ベスト10～」井上毅, Twilight No.21, 2001/5
- ・「こども科学館(仮称)市民アンケート調査結果概要」千葉市教育委員会
- ・「初心者による初心者のための講座のすすめ」向野都子, Twilight No.25, 2002/11